ウータン・森と生活を考える会

アフリカ熱帯林

SDG$_S$推進の先進国が主導する資源開発によって加速化される森林消失と先住民族迫害

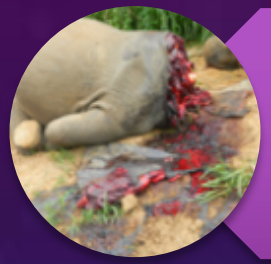
西原智昭

星槎大学共生科学部・特任教授

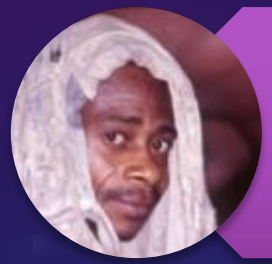
WCS（WILDLIFE CONSERVATION SOCIETY)自然環境保全研究員

根源的な問題

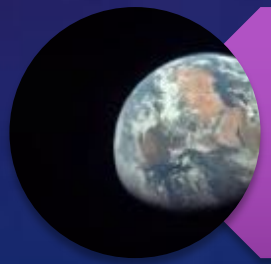
いまわたしたちの現状＝「差別の常態化」「共存の不可逆化」



人間と自然界：環境



文明人と弱者：社会



現代と次世代：未来

人類学から環境保全へ
～アフリカ熱帯林地域に30年～

©黒田壽久

1989年から9年
京都大学大学院・ポスドク
野生ゴリラなどの研究/コンゴ人研究者育成

1998年から21年
国際野生生物保全協会
WCS（Wildlife Conservation Society）
国立公園管理、熱帯林保全のための事業

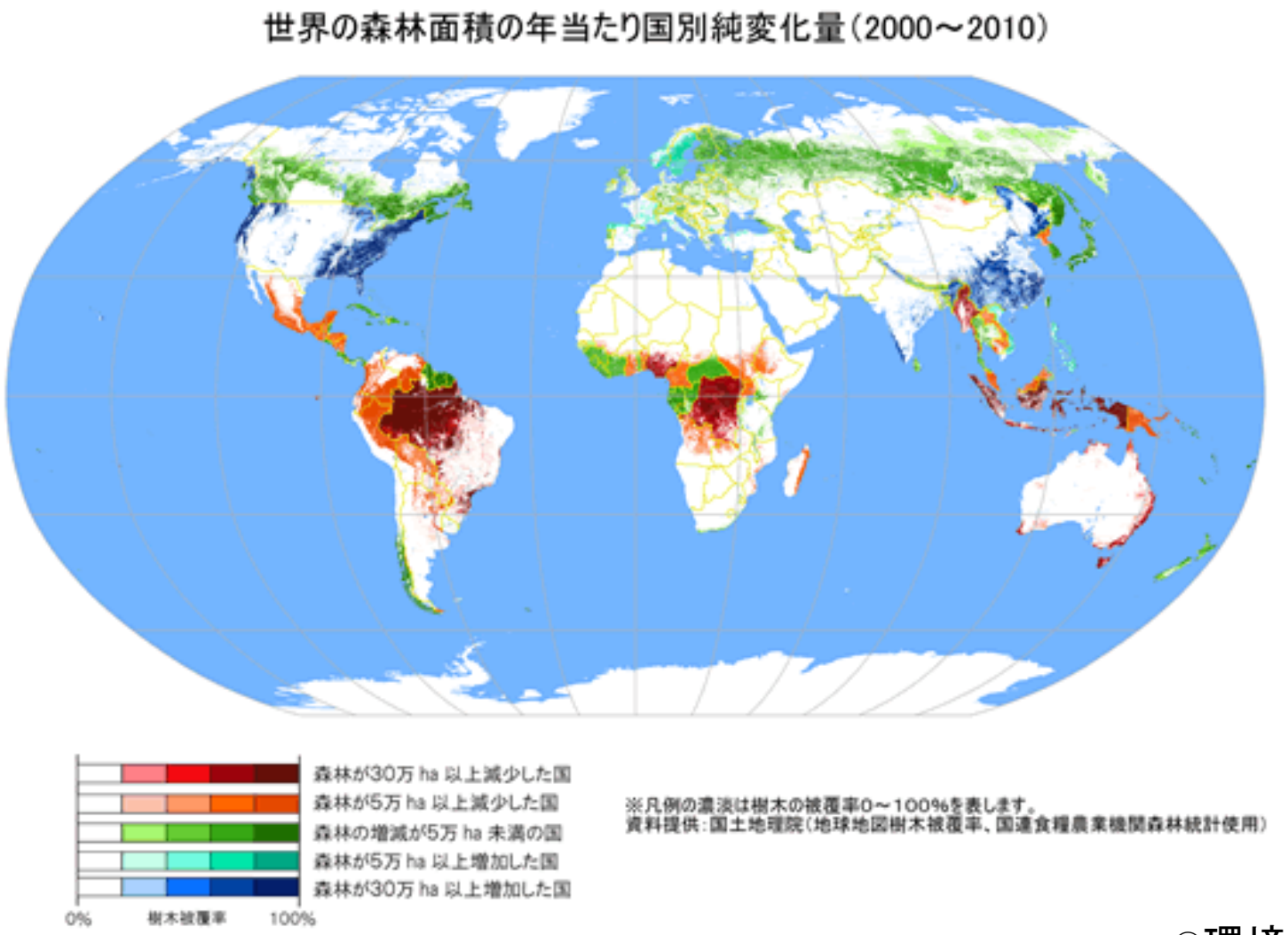
2019年から
星槎大学共生科学部
生態資源、先住民族、グローバル社会など

本を読みましょう！

CONGO
コンゴ共和国
西原智昭
マルミミゾウとホタルの
行き交う森から
増補改訂版
野生生物と
人間の境界に立って
地球を見渡せる人は
数えるほどしかいない。
京都大学総長
山極壽一氏推薦
CONGO
コンゴ共和国
西原智昭
マルミミゾウとホタルの行き交う森から
山極壽一氏推薦
定価 2300円+税
それは、生物たちの暮らす世界に入って
その本質を身体で感得する必要が
あるからだ。著者はその最先端で
活躍してきたフィールド研究者である。
ゴリラを最初の案内人として
アフリカの熱帯林に分け入った著者は、
多くの野生生物の悲惨な実態を
目の当たりにすることになった。
詳細な観察を通して
著者が語り続けてきた事実は、
いま私たちに
新しい問いを投げかける。

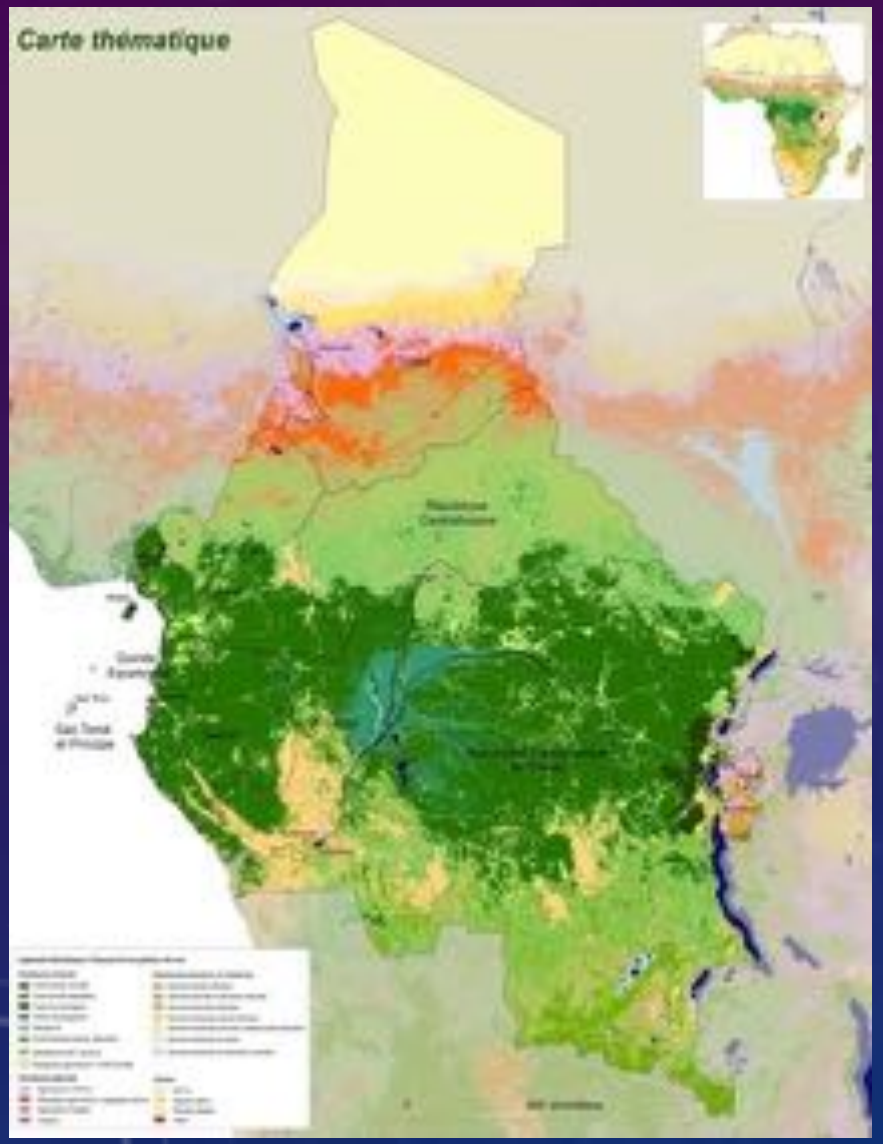
ドクター西原 OFFICIAL WEB
「人類を知ること、その未来を探索すること」

世界の森林：三大熱帯林の急激な消失



©環境省

アフリカのコンゴ盆地～熱帯森林地帯



©西原智昭

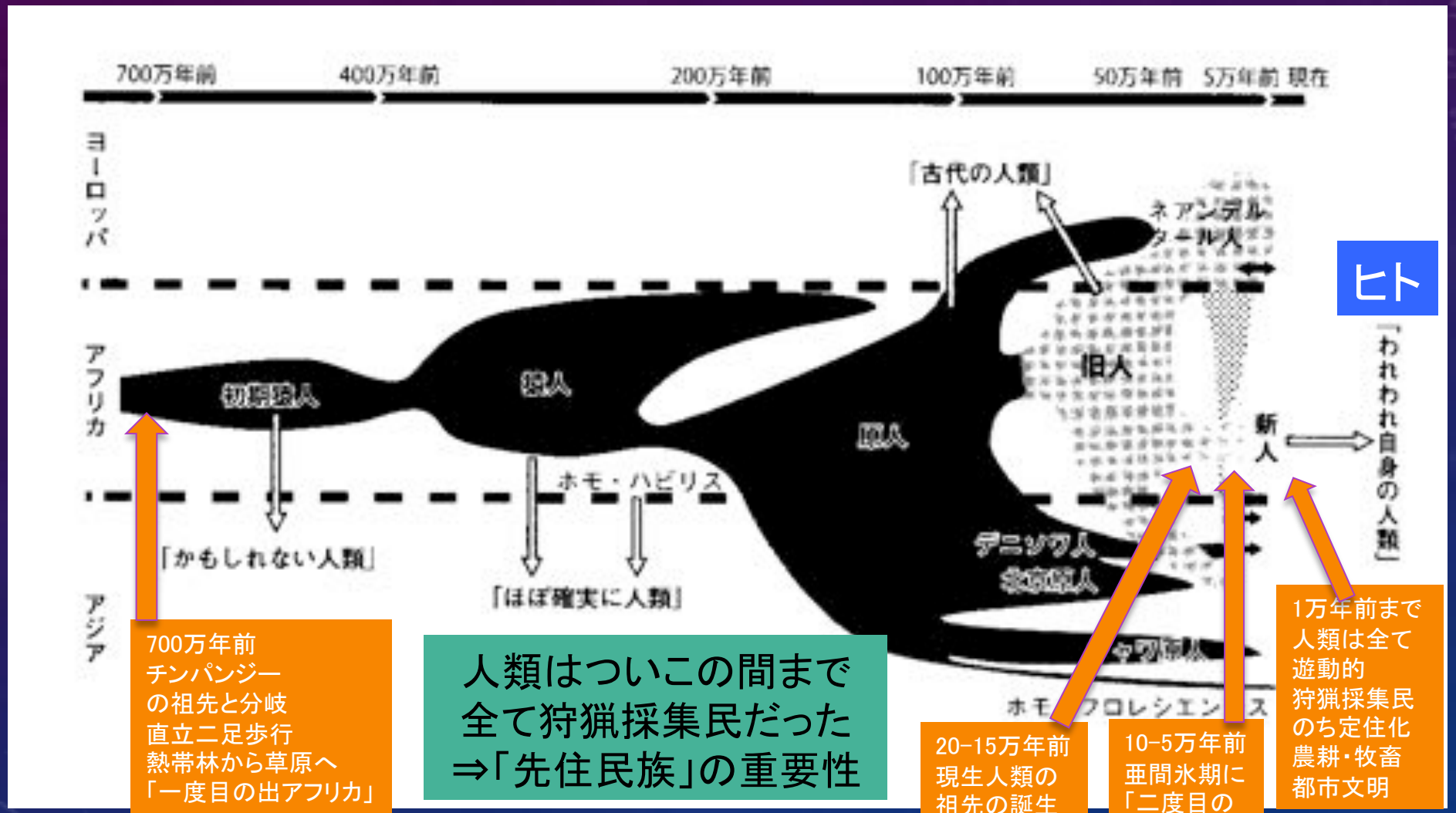
先住民族とはなにか？

自然界の中で従来から生活し
その環境に強く依存してきた人々

先住民の大半は＜狩猟採集民＞である
（「先住民」＝必ずしも「少数民族」ではない）

【ヒトの原点の生き証人】
（尾本恵市氏）

人類文化の根幹を形成してきた狩猟採集民



ヒト

700万年前
チンパンジー
の祖先と分岐
直立二足歩行
熱帯林から草原へ
「一度目の出アフリカ」

人類はついこの間まで
全て狩猟採集民だった
⇒「先住民族」の重要性

20-15万年前
現生人類の
祖先の誕生

10-5万年前
亜間氷期に
「二度目の
出アフリカ」

1万年前まで
人類は全て
遊動的
狩猟採集民
のち定住化
農耕・牧畜
都市文明

1年前　10日前　5日前　半日前

©Bernard Wood（馬場悠男訳）『人類の進化』（丸善出版2014）を改変

現代に生きる狩猟採集民（HUNTER-GATHERERS）

■全大陸に分布；人口およそ2億5千万人
■自然環境への適応により様々な生業【大規模農耕/牧畜なし】
＞遊動生活者（熱帯地方）：
✓サン（南アフリカ）
✓ピグミー（アフリカ・コンゴ盆地）
✓ネグリト（東南アジア）など
＞温帯地方の定住生活、植物栽培、交易、建造物等：
✓縄文人、アイヌ
✓北西海岸アメリカ先住民など
＊「豊かな食料獲得者」とも呼ばれる
＞極北地方の遊動・半定住生活者：
✓イヌイット（カナダ）
✓エスキモー（北極圏ユーラシア～アメリカ）など

先住民ピグミーとは？
～アフリカ熱帯林という自然界に依拠してきた狩猟採集民～

いずれも©西原智昭

先住民に対する先入観イメージ？

- 自然界に住む非衛生的な野蛮な人
- 物資や科学技術に遅れている人
- 経済的に恵まれていない貧乏な人
- ネット社会では生きれない人
- 文明の落ちこぼれ
- 地球上の最後の弱者

住居
～森の中の素材のみで作る～

森の森の中での採集活動

～昆虫・果実・葉・キノコ・ハチミツなど～

©西原智昭

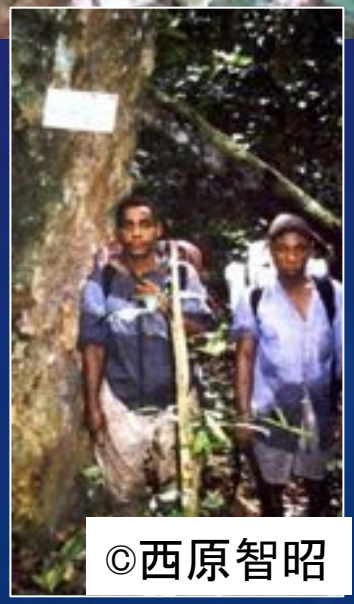
森の中で狩猟する・安全に迷わず歩く

～動物の正確な追跡、ネットハンティングほか～

©道祖神

©道祖神

©西原智昭


©西原智昭

森の中で出会う危険を回避…

すべての写真©西原智昭

先住民族（狩猟採集民族）の特徴

【相互の対等性/協同性】

◆所有（土地・食物）の観念がない：協同利用・シェア
◆対等主義：格差のない社会

【豊かな森への熟達と畏敬】

◆正確な自然の知識と畏敬の念：自然界の永続的持続利用
◆豊かな森の中での生業活動：週に数日、1日数時間程度

【精神と社会の豊かさ】

◆戦争なし【散発的暴力行為/殺人あり】；対立解決力
◆自殺なし

外圧により変わりゆくピグミー

～急激な変貌が招く存続危機～

すべての写真©西原智昭

近代的先進国型教育が先住民を崩壊させる

- 低い識字率を改善
- 経済社会の中での適応
- 高等教育への機会

→国際貢献の一貫

◆ 独自の言語の喪失
◆ 差別といじめ
◆ 自殺のない社会の崩壊
◆ 森の＜伝統知＞を学べない

→自然環境保全の担い手の喪失

個々人の特性や民族の特性などに応じた
「画一的でない」「差別のない」教育のあり方の再検証の必要性

いったいなぜこうしたことが起こり始めたのか？

- 金銭目的の盗み：クリスマス
- 逆恨みによる殺人：嫉妬、逆恨み
- 集団レイプ：酒の勢い
- 森を知らない若者：ガイドもできない

などなど

このまま＜ピグミー＞は
失われていいのであろうか？

- 誰が森を迷わずにガイドをできるのか？
- 誰が野生動物研究のアシスタントをするのか？
- 誰がゴリラを追跡しエコツーリズムをするのか？
- 誰が密猟者を追跡できるのか？

＜伝統知＞を保持するピグミーがいなくなれば
=>「生物多様性保全」「SDGs」どころではないのでは？

狩猟採集民は文明の落ちこぼれではない

否、われわれが尊重すべき人々では？

「ヒトの原点の生き証人」
「野生生物を熟知する熟練家」
「自然環境保全の先駆的担い手」

アフリカの熱帯林が消失していく理由は？

焼き畑による農地開発

すべての写真©西原智昭

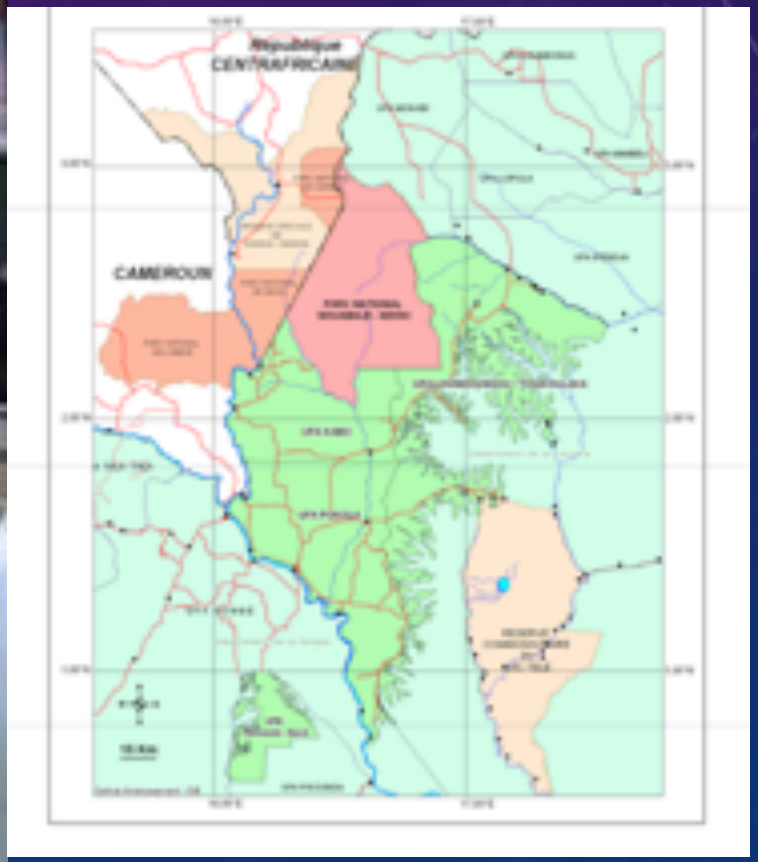
熱帯材目的の森林伐採

すべての写真©西原智昭

野生動物の急激な消失

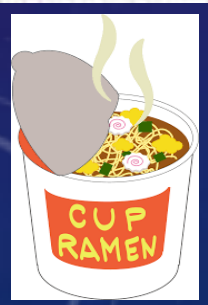
木材搬出路によるブッシュミートビジネスの加速化

©C. Rembeyo



世界の油ヤシ農園の生産分布図と油ヤシの消費

- ◆お菓子
- ◆カップラーメン
- ◆シャンプー
- ◆石鹸
- ◆洗剤
- ◆化粧品など



油ヤシの大農園

～東南アジアの企業のアフリカ進出～

©西原智昭

鉱物資源のための森林開発

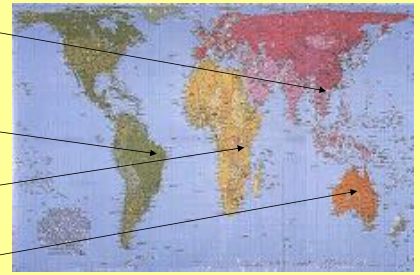
© Comite de la Federation de Solidarite avec l'Afrique Noire

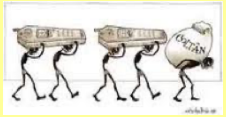
携帯電話は森林破壊だけでなく

内戦や少年兵、避難民、
児童労働、強制労働
野生動物の絶滅など
諸問題を招いている

Où se trouve t'il ?

- Thaïlande 5 %
- Brésil 5 %
- Afrique 80 %
- Australia10 %



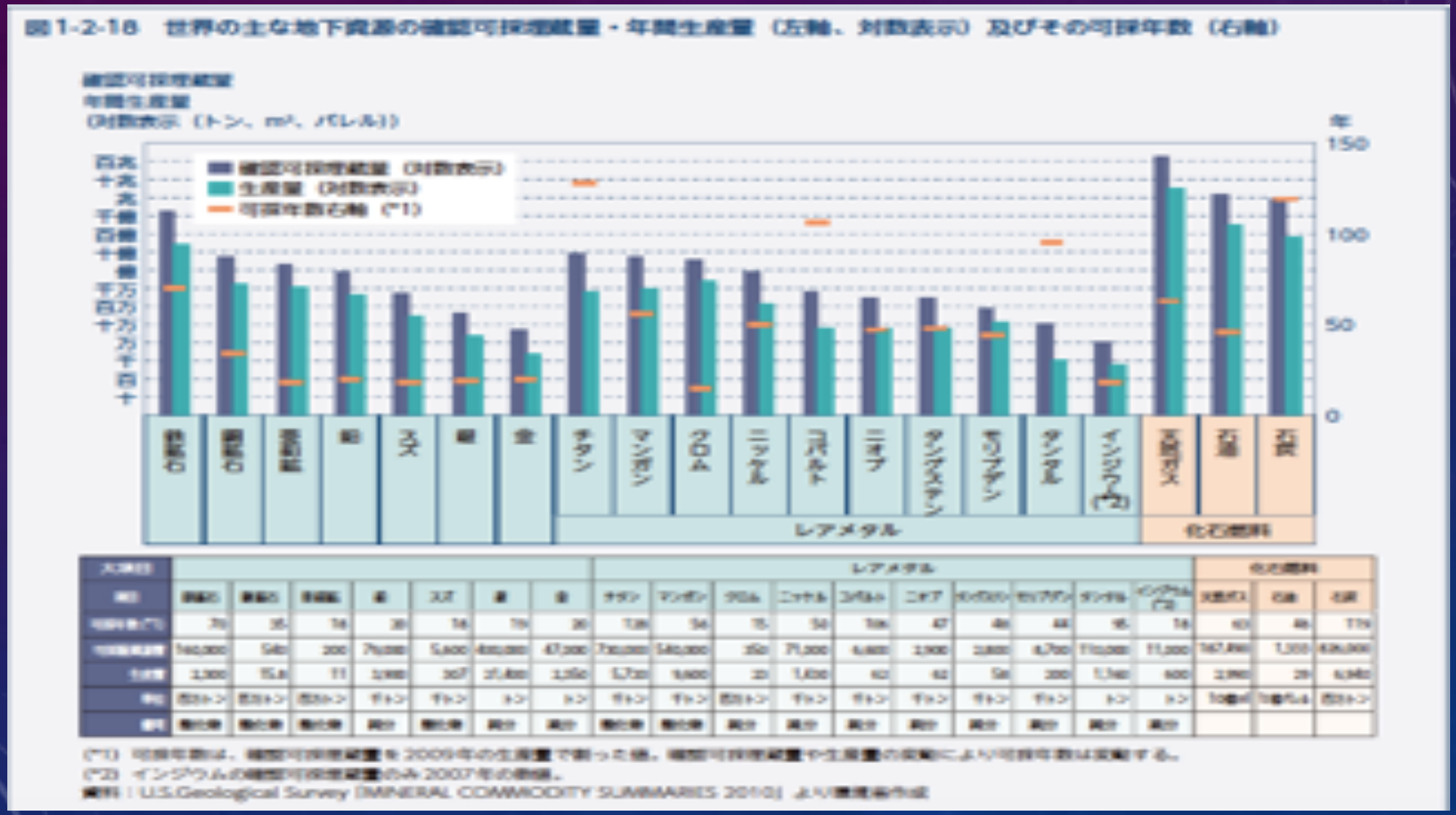


Conséquences sur le territoire

- Pour extraire le coltan du Congo les Parcs nationaux ont été envahis.
- Les ouvriers du coltan travaillent de l'aube au coucher du soleil.
- Ils dorment et mangent dans les terres sauvages des montagnes.
- Ils ne cultivent plus leurs terres.
- La population des éléphants a diminuée de 80%.
- La population des gorilles a diminuée de 90%.

© Comite de la Federation de Solidarite avec l'Afrique Noire

主要地下資源の可採年数～50年



©環境・循環型社会・生物多様性白書 p.17（環境省2011年）

「生物多様性」って、なんですか？

森林がなくなれば生物多様性の喪失
～先住民族が食する野生動物もいなくなる～

ブルーダイカー

ダイカー

©西原智昭

昼行性サル

©ASAHI Shinbun

カワイノシシ

象牙目的のマルミミゾウの密猟

アフリカ熱帯林での種子散布【礎石種】

～マルミミゾウが生物多様性の鍵を握っている～

©伊藤彩子

★熱帯林は植林が容易でない★

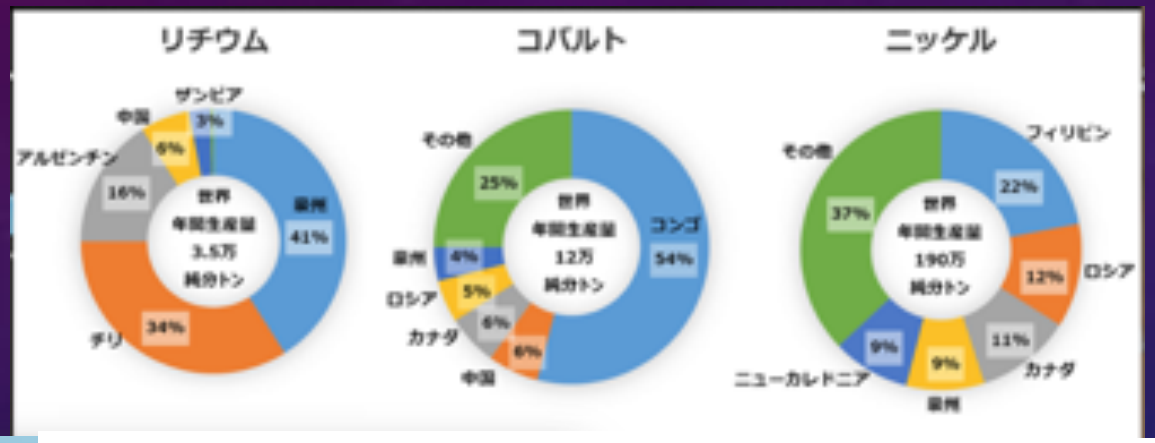
マルミミゾウがいなくなったら、
→森林は再生されない
→森林の消失
→生物多様性の喪失
→地球規模の環境変動

©H. Obecky

©西原智昭

©西原智昭

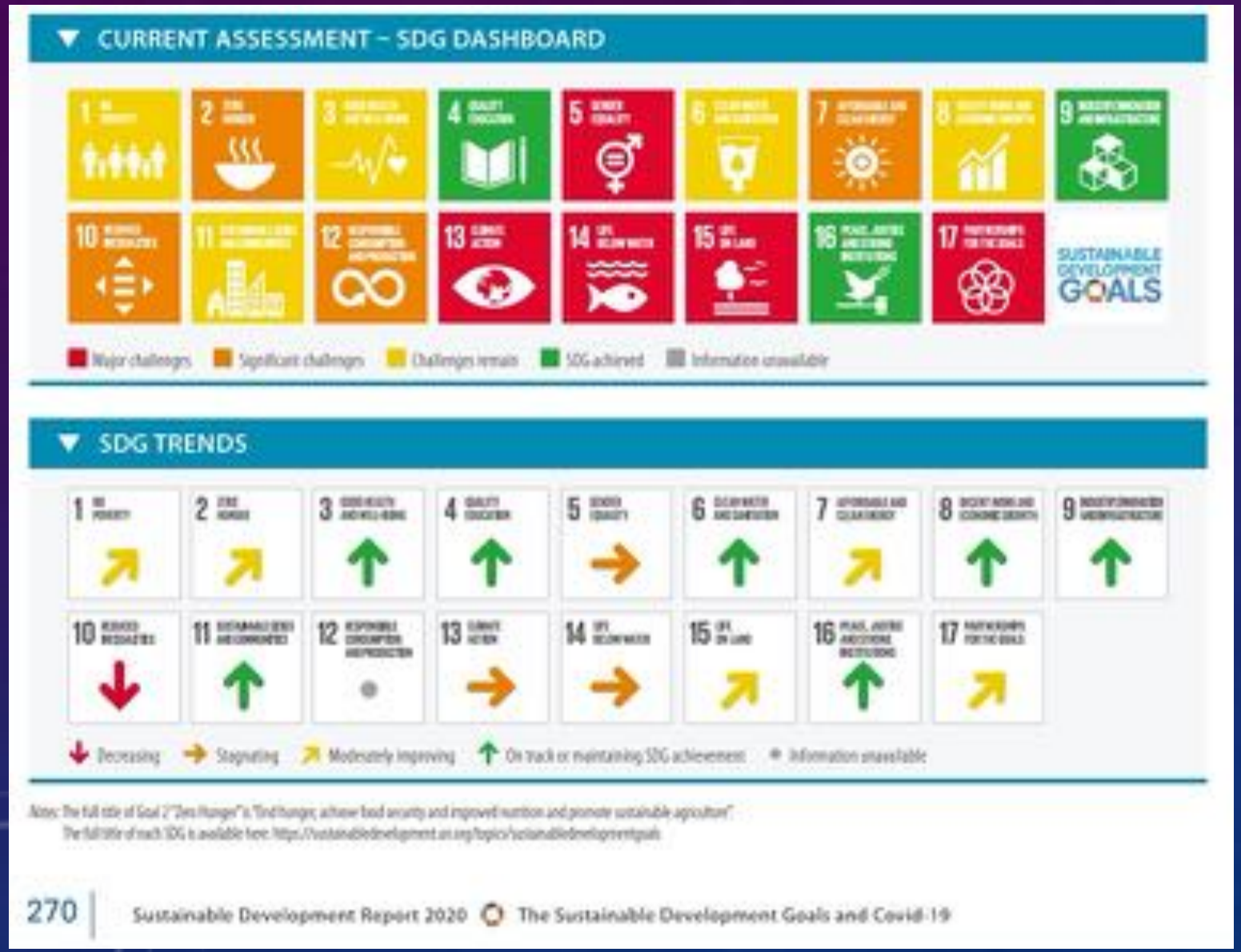
「気候変動対策」のために何をしますか？



©財務省貿易統計、鉱物資源マテリアルフローより経済産業省作成

*Understanding the Plight of the Mamanwa, First People of the Philippines by **LARRY R. DILLO**, St. Paul University Surigao, Caraga Region Philippines*

「SDG$_S$」では何が重要ですか？



「ひとりも残さずに」
のはずですよね？

国内の問題
国外への配慮

Sachs et al. (2020): The Sustainable Development Goals and Covid-19. Sustainable Development Report 2020. Cambridge: Cambridge University Press pp.270（日本）

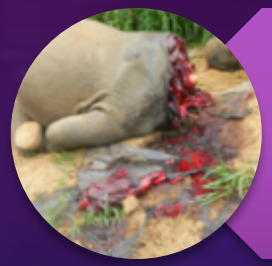
先住民族の問題はどこまで無視される？

世界が直面している課題	必ず取り沙汰される話	先住民は？
気候変動対策	自然再生エネルギー 電気自動車など新型装置	必要な資源開発で 自然界を喪失
生物多様性保全	特定の動物保護 植林、野生復帰	利用植物や食用 動物の喪失
SDGsの実現	2つか3つ・・・	多くの先住民が 取り残されている

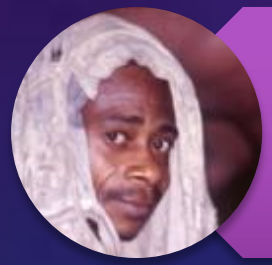
すべて先進国主導・都合で先住民族と議論していない！
先住民族に恩恵やメリットはあるのか？？？
【環境団体・人権団体の問題点もある】

根源的な問題「差別の常態化」

～”自然再生エネルギーWASHING”：必須の鉱物資源開発の視点から～



人間と自然界：環境



文明人と弱者：社会

現代と次世代：未来